

な準備活動がいかに大切か、毎年恒例のように起こることではないのでやはり注意が行き届かない・持続されていない点が散見されるのは困りものですね。今後の対応に手抜き無きように強く要望しておきました。

## ■高齢者対策について(通算61件)

高齢者対策・介護要員は足りているのか、将来を見越して質しました。

千葉県森田知事が12月にベトナムを訪問し、介護要員養成スクールを視察して気立ての優しいベトナム若人に、「準備をして日本に来て勉強してください」と話しか

けておられたようです。12月の新聞に掲載されており、同行した日本の介護事業者も「しっかり勉強しているのを見て安心」と前向きに捉えていました。

本市も早めの受け入れ態勢づくりを始めた方が良いと意見を申して締めくくりました。自分も後期高齢者の世代です。介護を受けなければならない時もあるかもしれません。早めの対応を期待して要請しておきました。ベトナム人は穏やかな民族です。

Keep Finger Cross!!(期待する)と言います。



## 本市の「災害時協力井戸」の設置状況はこれでよいのか?

平成24年5月のホルムアルデヒド水質事故で、十分処理できていなかった廃液が利根川水系に流れ込んだために一時市内の浄水場が採水を中止して給水作業をやめました。そのため付近住民は浄水場に貯水されていた汚染されていない水を長い列を作って並び、井戸水を持ち帰ったことを覚えておられる方もおられるでしょう。



今回は、そういう際に飲用水としての利用は難しくても、生活用水として使用可能な個人の井戸水を災害時に住民に広く給水してあげられる「災害時協力井戸」の登録状況を調べたところ、平成21年からの事業であるにもかかわらず、東日本災害時の翌平成24年と注意を喚起された平成30年には、市内北部・中央部では40件以上の登録がなされたが、その間平成28・29年はゼロ登録という状況と市の

東部・南部の各地域で関心持たれていない地域(場合によっては使用に耐えられる井戸の数が少ない)もあるやに見えて、東部4カ所・南部12カ所と市内の井戸設置に凸凹ができていくという状況を発見した。

執行部にはこのムラを排除して全地域そこそこの登録井戸確保できることを示してほしいと強く注意を喚起しました。

## 今年は、9月にワールドカップ・ラグビー、来年は2020東京オリ・パラの年です。

昨年9月にオランダの女子バレー代表が本市で1週間ほど合宿を張り、市内の女子中学生チームに模範バレーを見せてくれました。世界バレーボール選手権大会の結果は世界4位、日本は6位、優勝はセルビアでした。西川も中学から大学・実業団まで続けた元バレーボール選手でした。その合宿の記事は前号の「ほねぶとレポート」に掲載しましたが、覚えておられますか??

さて今回は2月15日から大阪で「国際親善女子車いすバスケットボール大会」(通称・大阪カップ)が開幕。オランダ・イギリス・オーストラリアという世界の強豪が参加しました。それに先立つ8・9日に流山でオランダチームとの強化試合で大きく成長し、15日からの通称・大阪カップでの日本チームは、対イギリスに54-60と惜敗、対オランダ54-64で敗戦、オーストラリア戦は56-43で圧勝。結果は優勝オランダ・2位:イギリス・3位:日本・4位:オーストラリアでした。

車いすバスケットでは2020東京パラリンピックの花形競技を楽しんで下さいとのことであった。「面白いのは各選手で体を動かせる範囲により4.5点から1.0点まで」持ち点があり、メンバー編成によって戦略も大きく変わるところです」と説明を受け、車のぶつかり合いは迫力があり、アツという間に虜になるはずと言われました!あなたもTRYしてください。



LINE@プロジェクト 体験会はこちらから

■一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟 ホームページ

(<https://www.jwbf.gr.jp/>)

